



実家が酪農家で、高校でも酪農に携わりたくてホルスタインクラブに入部しました。高校では日々の管理から共進会などについて学ぶことがとても多く、充実しています！そして何より牛が可愛いです。これから進学や就職をすることになって、牛とともに過ごしていきたいと思います。(1年生、鈴木晶絵さん)



私の実家は酪農家でもなければ、北海道にあるわけでもありません。酪農という仕事に興味があり、本格的に学びたくて入学、入部を決めました。部活はとても充実していて、授業以上の大切なことをたくさん学んでいます。今は放牧経営に興味があり、今後は実際にやっている農場を見て学びたいです。自分の牧場を経営することが目標です！(1年生、岸優歩さん)



実家が酪農家で、今までも牛と接していました。今まではただ何となく「牛がかわいい」と思っていたのが、活動とおして、産業としての酪農を学んだり、さまざまな考え方に触れたりしたことで、より深い考えで、愛情をもって牛に接するようになったと思います。まだクラブでの経験は浅いので、これからもっと積極的に頑張ります！(2年生、塚田あゆむさん)



日々の作業の達成感

日々の作業で、牛舎を掃除しピカピカになった後の様子を見ると気持ちが良いです。大好きな牛に快適に過ごしてもらいたいという思いがあります。

概要

帯広農業高等学校 ホルスタインクラブ
部員9名
経産牛30頭
フリーストール牛舎、ミルクパーラー
活動内容：共進会への参加を中心に乳牛の管理を行なう。生徒達は早朝、始業前から牛の世話をし、放課後は調教などの活動をしながら、年に数回行なわれる共進会へ出場することを目標としている。酪農に情熱を注ぐ生徒が、牛や地域の酪農家とより深く関わり、日々さまざまな学びを得ている。
担当教諭：三浦 颯太 先生

※生徒の学年は2023年3月9日取材時のもの

酪農に憧れや興味を抱き、実践をとおして酪農を学ぶ学生達は今、何に興味を持ち、どのような活躍をしているのか？
未来の酪農業界を担う期待の星を紹介！



採卵から共進会まで

最新の酪農技術を用いて牛が生まれ育っていく様子を学ぶために、生徒が採卵から関わるプロジェクトを進めています。近隣の酪農家の協力のもと、採卵した受精卵を高校の牛に移植し、生まれた子牛を育てあげ、共進会へ出場することを目標としています。2025年に北海道で全共が開催される予定なので、そこに出場することが、今の目標です。



昨年新卒として着任し、1年間ホルスタインクラブを担当させていただきました。熱意あるメンバーと、牛に囲まれ活動できてとても充実しています。生徒には「何かを成し遂げるには周りの協力が不可欠で、クラブ内外問わず、常に人とのつながりが大切である」と、活動を通じて伝えていきたいです。(三浦颯太先生)



昨年秋に開催された共進会のリードマンコンテストで、先輩が好成績を収める姿を目の当たりにし、憧れを抱きました。今年は部長である私が部を引っ張り、先輩のように輝けるように頑張ります！(2年生、鈴木彩乃さん)



非農家ですが、「牛が好き」という理由で入部しました。1年の活動で、1頭ごとの名前と顔がわかるまでになりました。生き物相手の酪農は、日々の管理や接し方がとても大切だと実感しました。きちんと向き合い、今はとても充実しています！(1年生、山内ひなきさん)

帯広農業高等学校



(帯広農業高校提供)

先輩のように

昨年秋に行なわれた共進会のリードマンコンテストで、帯広農業高校の先輩が優秀な成績を収めました。その様子を目の当たりにして、「次は私達の番だ」と今から気合が入ります！

学生牛部は今!